

世界遺産を掘る 第 6 回

－ 仁和寺 －

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 モンペティ恭代

1. はじめに

桜の名所として知られる仁和寺。秋の紅葉の時期にも多くの参詣者で賑わいます。その開創は仁和 2 年(886)に遡ります。以来、皇族出身者が門跡となり、隆盛と衰退、復興の道を辿りながら、今日に至ります。今回は、仁和寺境内と周辺で行われた発掘調査を紹介しながら、この寺の歴史を見ていきます。

2. 仁和寺の歴史

①開創……光孝天皇が鎮護国家・仏法の興隆を図るため、寺院の建立を発願しましたが、翌年崩御。皇位を継承した宇多天皇が父の遺志を継いで造営を進め、仁和 4 年(888)に金堂が落成します。はじめは西山御願寺と呼ばれていましたが、年号をとって仁和寺と名付けられました。

②法親王制の確立……周囲には「円」の字が付く 4 つの御願寺四円寺(円融寺・円教寺・円乗寺・円宗寺)が建立されます。平安時代末期には白河天皇の皇子が法親王となるなど、皇室出身者が代々門跡を務め、門跡寺院として最高の格式を保ちます。

③応仁・文明の乱……西軍の陣地となったことから、東軍の急襲を受け、ほとんどを焼失。

④寛永再興期……上洛した第 3 代将軍徳川家光に対し、第 21 世覚深法親王が伽藍再興を願い出、幕府の承諾を得ます。御所の紫宸殿が移築されるなどして、正保 3 年(1646)、ほとんどの建物が完成します。現在の伽藍にはこの時に造られた建物が多く残っています。

3. 仁和寺の伽藍

- ・ 二王門……寛永 18 年(1641)～正保 2 年(1645)の建立。重要文化財。
- ・ 本坊…寛永年間に御所から移築した建物があつたが、明治 20 年(1887)に焼失、大正 3 年(1914)までに再建。勅使門、宸殿、大玄関、白書院、黒書院、霊明殿など。
- ・ 中門……寛永 18 年(1641)～正保 2 年(1645)の建立。重要文化財。
- ・ 五重塔……寛永 21 年(1644)建立。重要文化財。
- ・ 経堂……寛永 18 年(1641)～正保 2 年(1645)の建立。重要文化財。
- ・ 金堂……慶長 18 年(1641)造営の御所紫宸殿を寛永 20 年(1643)に移築。国宝。
- ・ 観音堂……寛永 18 年(1641)～正保 2 年(1645)の建立。現在、修理中。重要文化財。
- ・ 鐘楼……寛永 21 年(1644)建立。重要文化財。
- ・ 御影堂……寛永 18 年(1641)～正保 2 年(1645)の建立。慶長度内裏清涼殿の部材を使用。

時代	年	西暦	仁和寺関連事項
平安	仁和2	886	光孝天皇、大内山の南麓に寺院の建立を発願。
	仁和3	887	光孝天皇、崩御。
	仁和4	888	宇多天皇、父帝の遺志を継ぎ、金堂を落成。
	寛平9	897	宇多天皇譲位。
	昌泰2	899	八角円堂院が建立される。宇多上皇、仁和寺にて出家。
	延喜4	904	宇多上皇、法皇として、仁和寺伽藍の西南に僧坊を造営、仙洞御所とする。
	承平元	931	宇多法皇、崩御。
	永観元	983	円融天皇、円融寺建立。
	長徳4	998	一条天皇、円教寺建立。
	天喜3	1055	後朱雀天皇発願、後冷泉天皇、円乗寺建立。
	延久2	1070	後三条天皇、円明寺(翌年円宗寺と改称)建立。
	永保3	1083	白河天皇、第三皇子覚行を入室させる。
	寛治6	1092	覚行、白河法皇の院宣に基づき一身阿闍梨の宣下を受ける。
	嘉保3	1096	仁和寺成就院完成。
	承德2	1098	覚行、円宗寺及び法勝寺の検校に補任。
	康和元	1099	覚行阿闍梨に親王宣下、法親王制創出(仁和寺三世)。
	天永3	1112	白河天皇第四皇子覚法、法親王となる(仁和寺四世)。
	元永2	1119	仁和寺、寺の主要部を焼失するも、仏像や宝物は南御堂、円堂、経堂に収容され、難を免れる。金堂再建。
	大治5	1130	待賢門院璋子、法金剛院建立。
	仁平3	1153	鳥羽天皇第五皇子覚性入道法親王仁和寺五世となる。
嘉応2	1170	後白河天皇第二皇子守覚、法親王となる(仁和寺六世)。	
中世	応安2	1369	大風で円宗寺全壊。
	応仁元	1467	応仁・文明の乱勃発、仁和寺、西軍の陣所となる。
	応仁2	1468	仁和寺、丹波の内藤元貞率いる東軍により急襲、放火され、灰燼に帰す。
	永正6	1509	利貞尼、仁和寺真乗院領を購入、妙心寺に寄進する。
近世	寛永11	1634	第二十一世覚深法親王、将軍家光に伽藍再興を願い出る。
	寛永20	1643	慶長度造営御所の紫宸殿が移築される。
	寛永21	1644	五重塔・鐘楼など建立。
	正保3	1646	観音堂・中門・二王門・経蔵などの造営が完成。この頃境内に桜が植えられる。
	慶安元頃	1648頃	仁清、御室に窯を開く。
	元禄12	1699	乾山、泉谷に窯を開く。
	安永9	1780	都名所図会に花見の様子が描かれる。
	文政10	1827	御室八十八ヶ所を開設。
	嘉永5	1852	永楽和全ら、御室窯を開く。
	慶応3	1867	第30世純仁法親王が復飾を命ぜられ、仁和寺宮嘉彰親王となる。
近代	明治20	1887	本坊焼失。
	大正3	1914	本坊再建。
	昭和13	1938	仁和寺御所跡として国の史跡に指定される。
現代	平成6	1994	ユネスコ世界文化遺産に登録。



図1 ⑧第6次調査1区出土軒丸瓦(江戸時代)

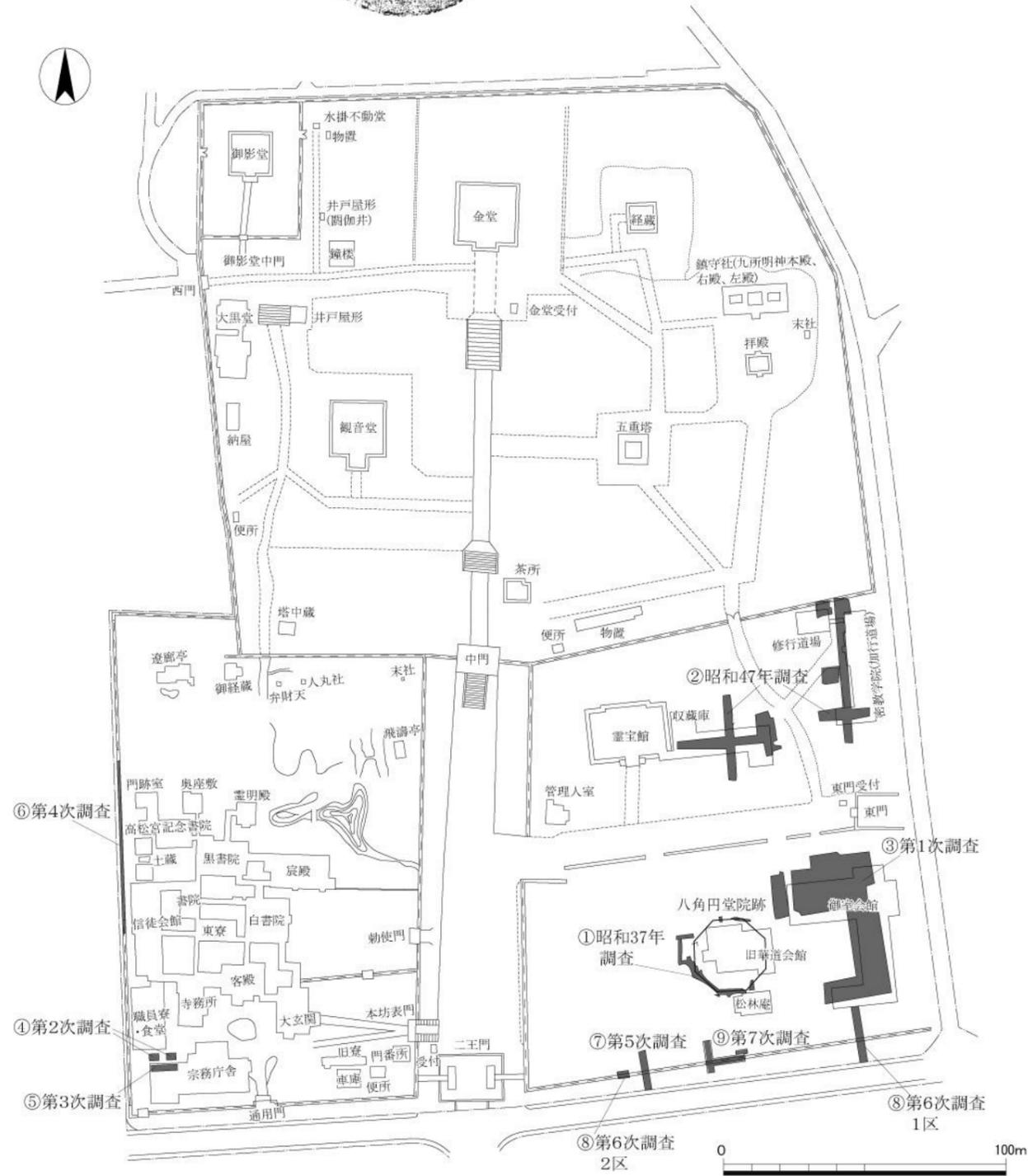


図2 仁和寺境内 既往の発掘調査地

4. 発掘調査

①昭和 37 年調査

杉山信三氏による調査。八角円堂院跡を検出。

②昭和 47 年調査

近畿大学理工学部建築学科杉山研究室ゼミナールによる調査。南北方向の築地跡を検出。

③第 1 次調査

昭和 56 年実施。現在の御室会館の建設工事に伴う調査。近世の遺構として、溝・井戸・土坑・柱穴などを検出、「仁清」銘陶器などが出土。平安時代後期から中世の遺構として、土塁・築地・溝などを検出。平安時代中期の遺構として、建物跡・雨落ち溝・土塁・溝などを検出、墨書土器・硯・緑釉瓦などが出土。建物跡は円堂院付属の僧坊であることが判明。

④第 2 次調査

平成 11 年実施。宗務庁舎の増・改築工事に伴う調査。寛永再興時の西面築地塀跡や雨落ち溝などを検出、江戸時代の土器・「仁清」銘陶器などが出土。

⑤第 3 次調査

平成 12 年実施。現在の宗務庁舎建設工事に伴う調査。明治時代の遺構として、火災処理穴、江戸時代前期の遺構として、築地や側溝などを検出、土器・「仁清」銘陶器・瓦・墨書木製品などが出土。平安時代後期から鎌倉時代前期の遺構として、門を伴う築地状施設や側溝を検出。

⑥第 4 次調査

平成 21 年実施。西側の土塀解体修理工事に伴う調査。解体した土塀の測量を行い、精査。寛永再興時に大規模な造成工事が行われたこと、現存する石垣は再興時のものではなく、江戸時代後期に積み直されたことなどが判明。

⑦第 5 次調査

平成 24 年実施。南側の土塀解体修理工事に伴う調査。天和年間(1681~84)に存在した土塀の基礎となる石組みなどを検出。文化年間には「真光院」が造営され、その折、この部分を取り壊し門を開き、明治期にその門は塞がれ、再び土塀となったこと、下層には平安時代の整地層が残っていることなどが判明。

⑧第 6 次調査

平成 25 年実施。南側の土塀解体修理工事に伴う調査。天和年間の土塀の基礎となる石組みや「真乗院」に伴うと考えられる階段跡とそれに続く路面、また、平安時代の整地層などを検出。「仁和寺」銘の軒丸瓦や唐草文の軒平瓦が出土。

⑨第 7 次調査

平成 26 年実施。南側の土塀解体修理工事に伴う調査。江戸時代初期の土塀の基礎地業跡などを検出、土塀の工法や旧地形などが判明。

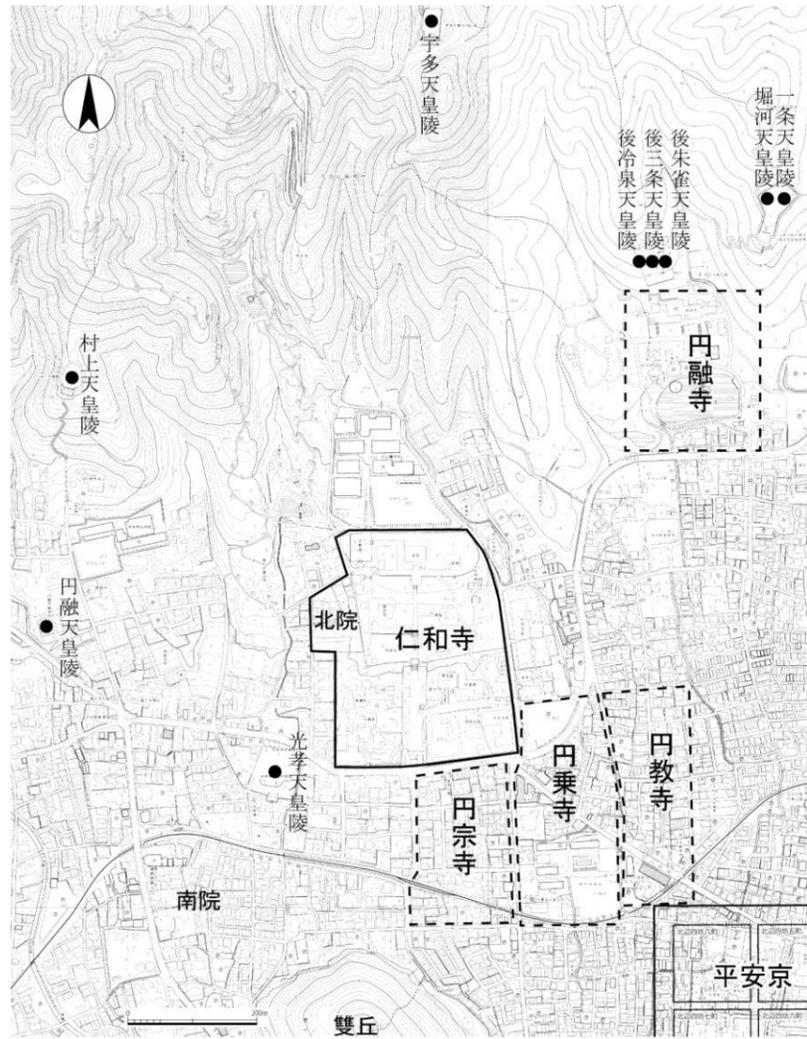


図3 仁和寺とその周辺

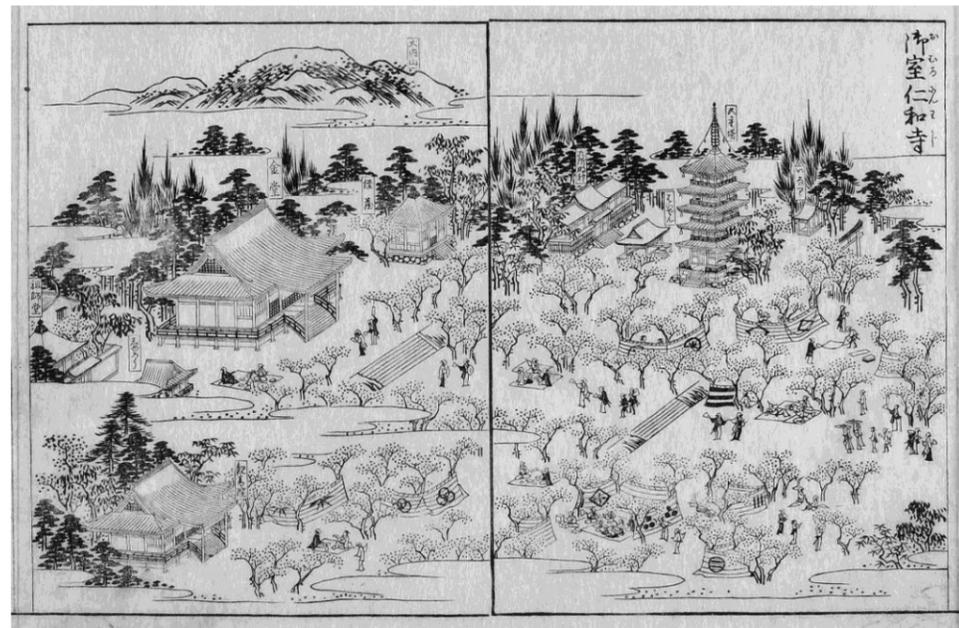


図4 都名所図会 (安永九年) 御室仁和寺 (1780)

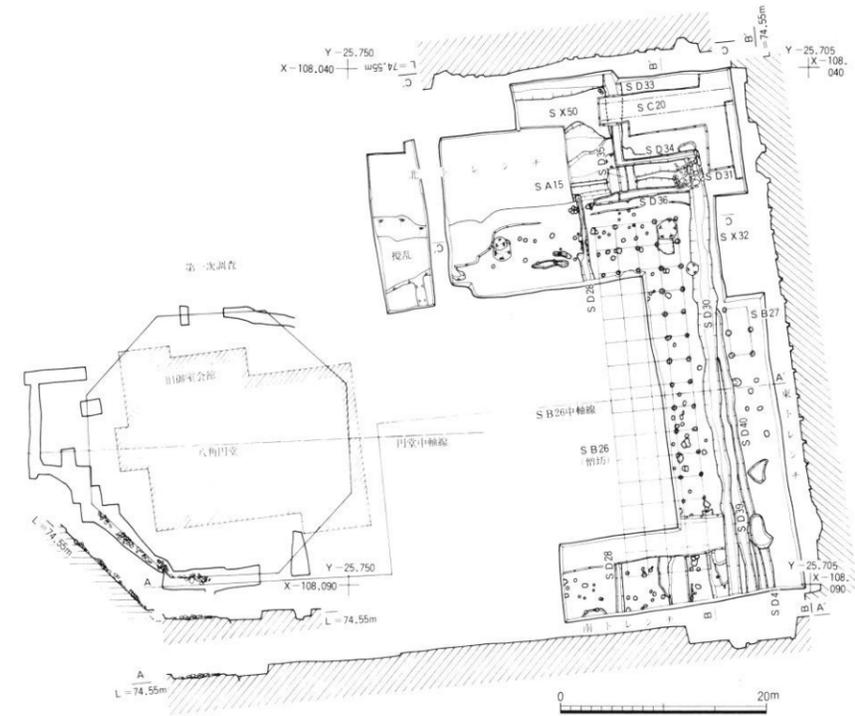


図5 ①昭和37年調査及び③第1次調査平面図



図6 ③第1次調査 全景写真 (北から)

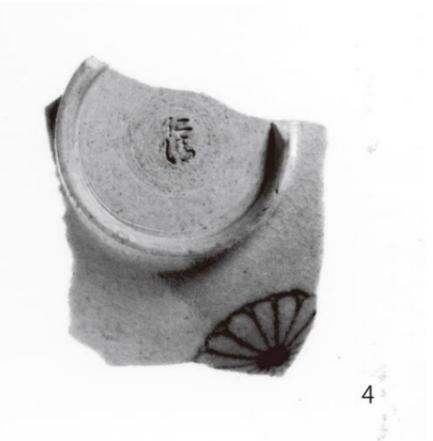


1

2



3



4



5

图7 ③第1次調査 出土遺物

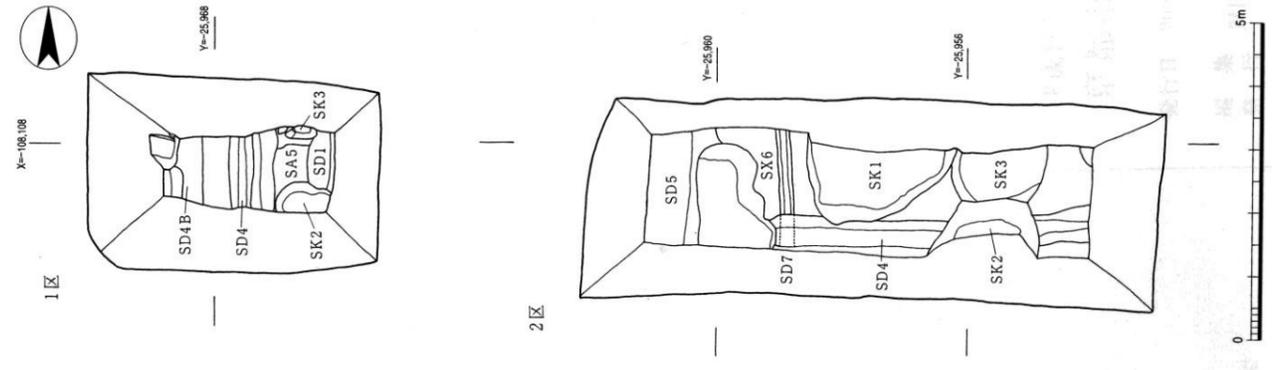


图8 ④第2次調査平面図

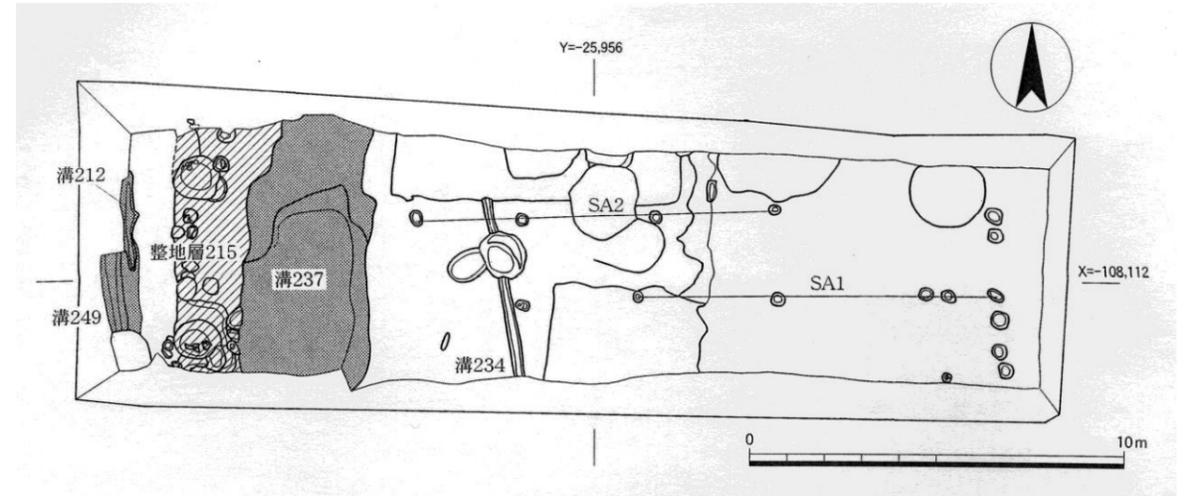


图9 ⑤第3次調査平面図

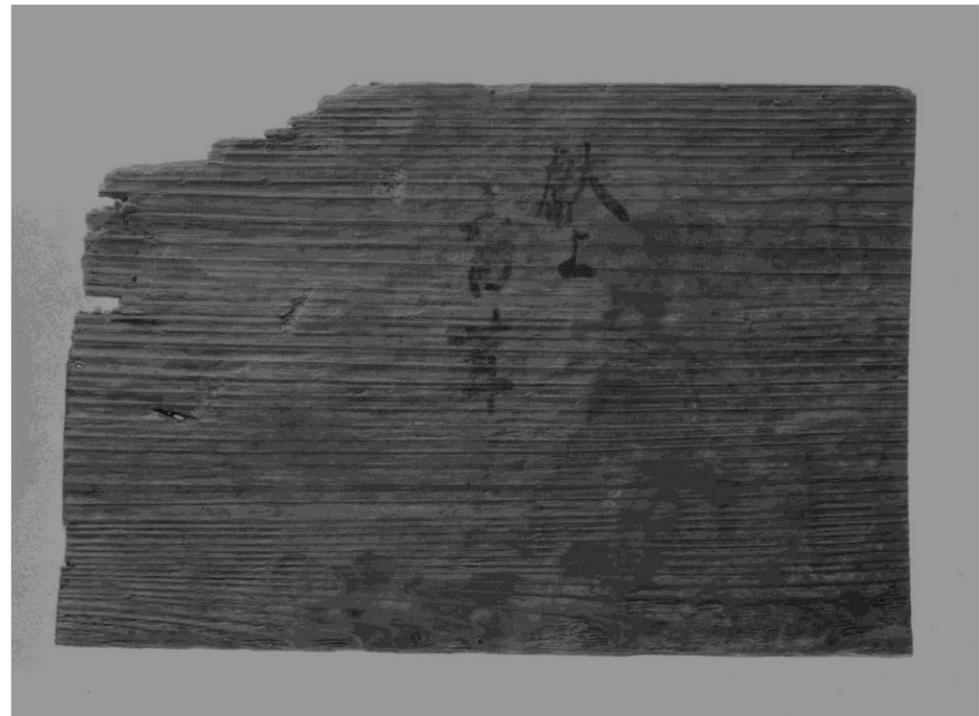


图10 ⑤第3次調査出土木製品

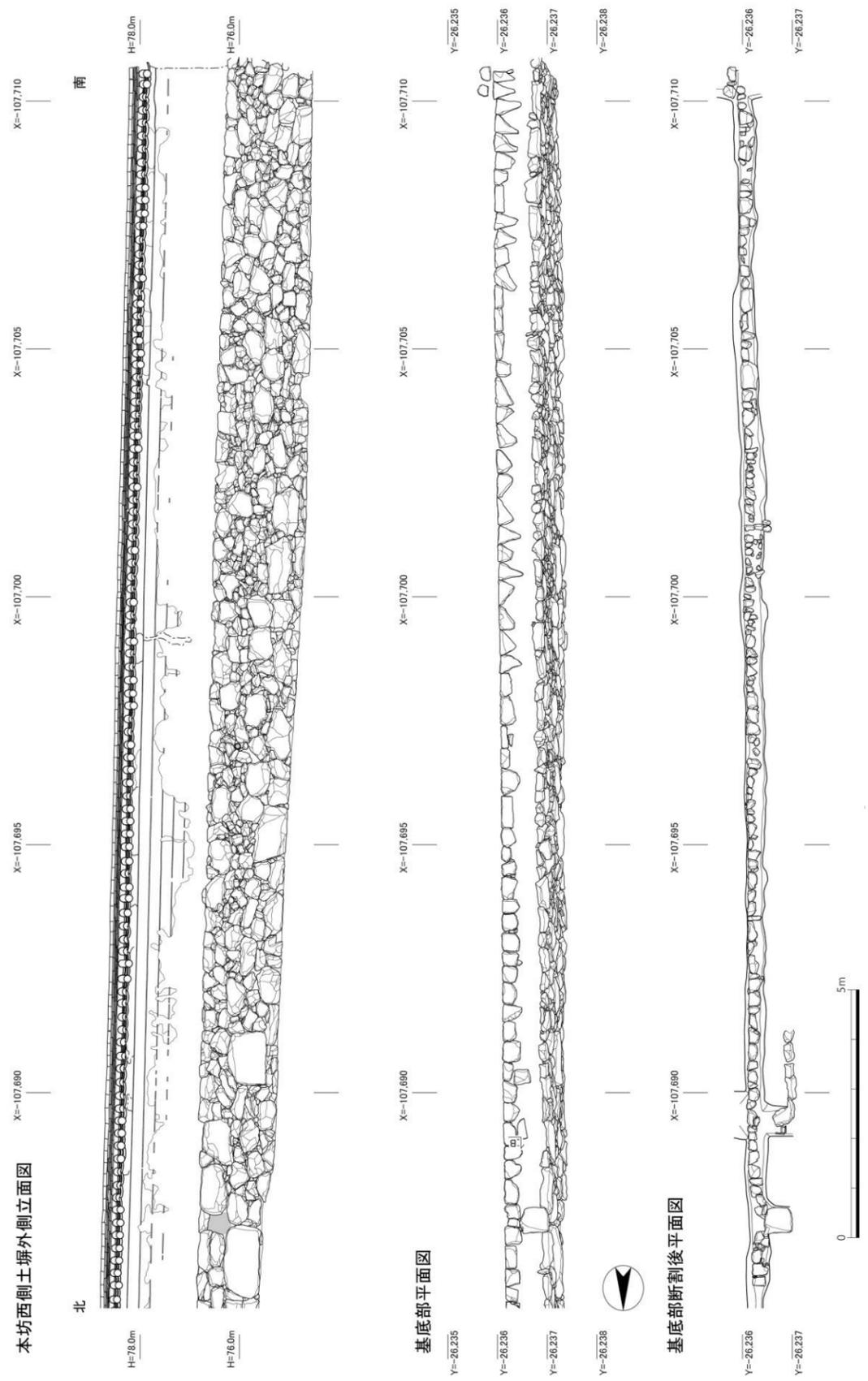


图 11 ⑥第 4 次調査 西側土塀実測図



图 12 西側土塀基部 (北から)



图 13 西側土塀石垣 (北西から)

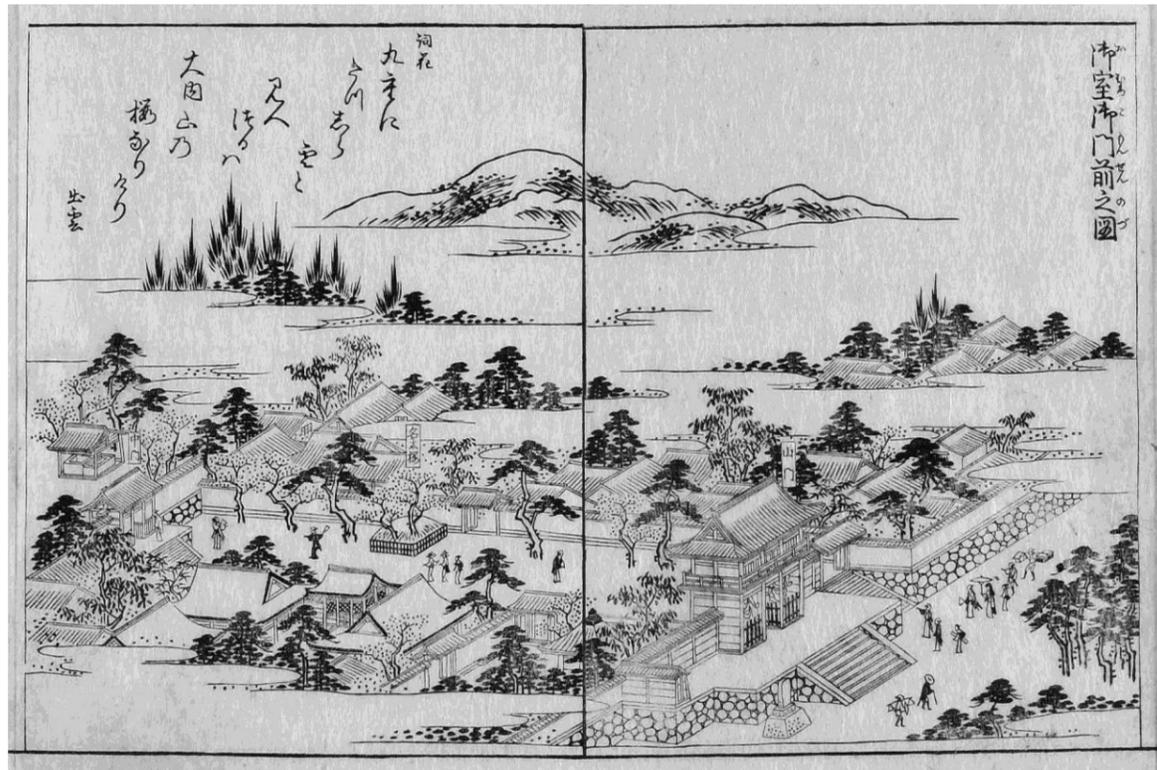


図 14 都名所図会 (安永九年) 御室御門前之図 (1780)



図 16 ⑧第 6 次調査 1 区南部全景 (南西から)



図 17 ⑨第 7 次調査土塀基部全景 (西から)

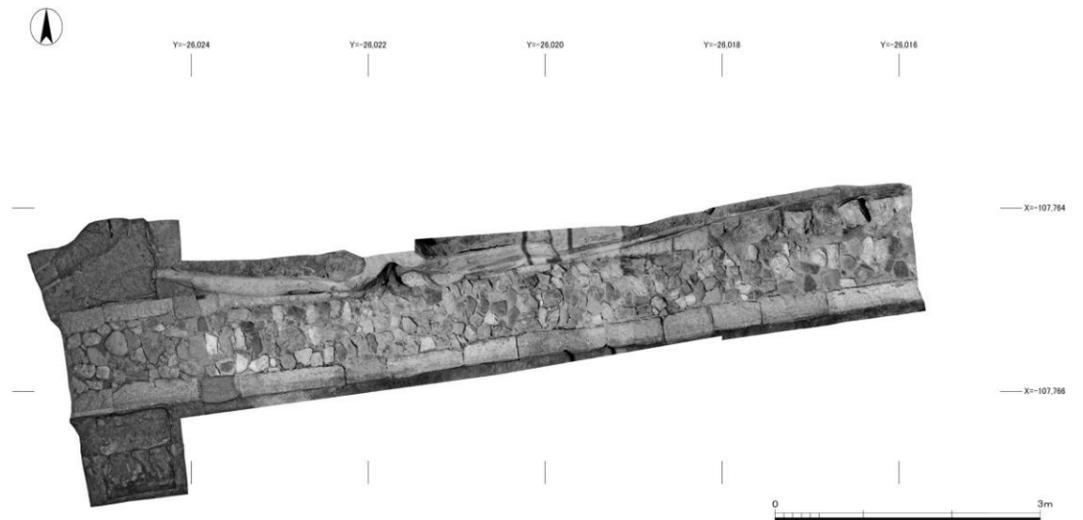


図 18 ⑨第 7 次調査土塀基部写真



図 15 ⑦第 5 次調査 土塀断面写真 (西から) および断面図

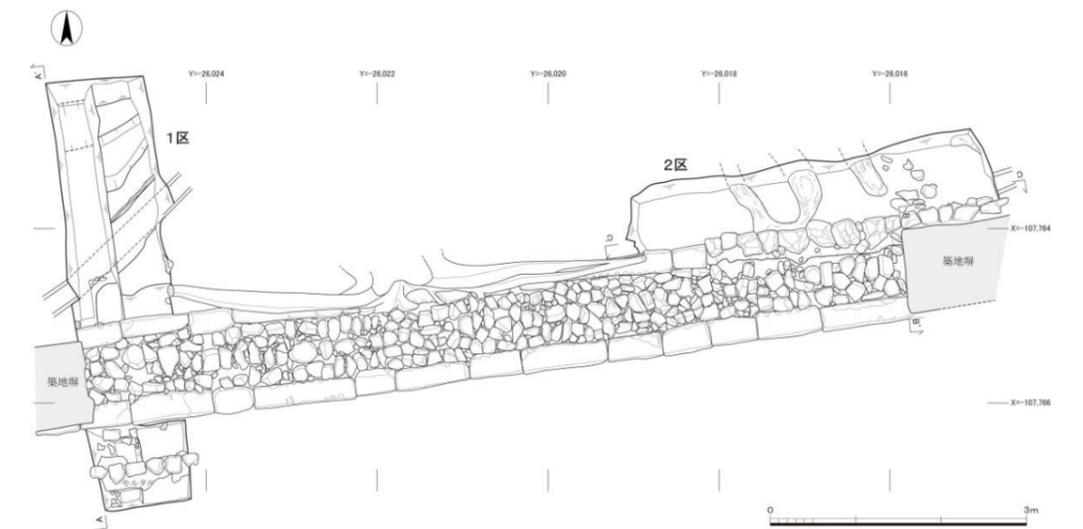
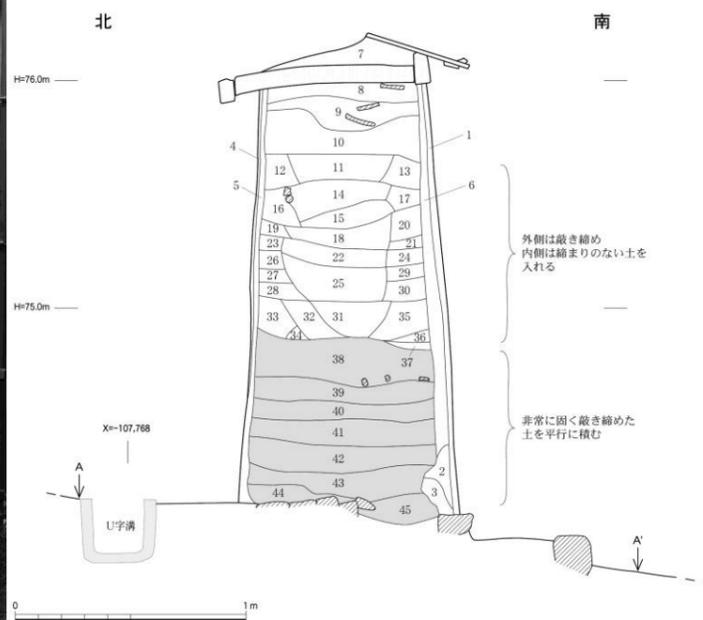


図 19 ⑨第 7 次調査土塀平面図